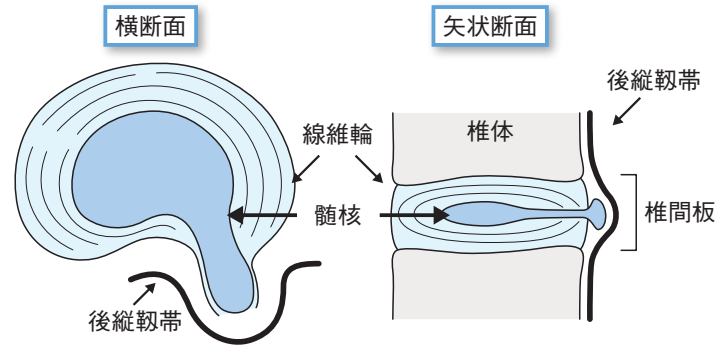


# 腰椎椎間板ヘルニアの形態分類とヘルニコアの適応とならない症例

腰椎椎間板ヘルニアは、その形態及び後縦靭帯との位置関係により4つの型に分類されます。  
MRIなどの画像検査で「後縦靭帯下脱出型」と診断されるヘルニアのみを投与対象としてください。  
慎重に鑑別診断を行い、本剤の安易な使用は避けてください。

## ヘルニコアの適応症例(Macnab分類)

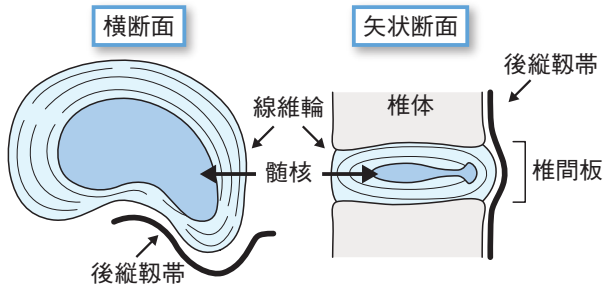
### 後縦靭帯下脱出型 (subligamentous extrusion)



ヘルニアが線維輪の最外層を超えるが、後縦靭帯で覆われる

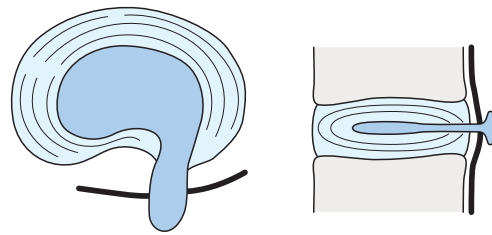
## ヘルニコアの適応とならない症例(Macnab分類)

### 膨隆・突出型 (protrusion)



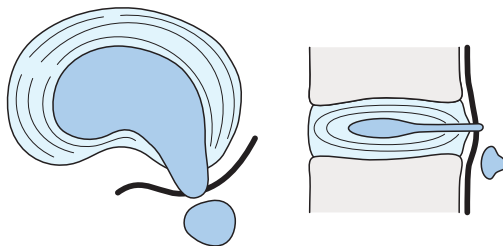
ヘルニアが線維輪の最外層を超えない

### 経後縦靭帯脱出型 (transligamentous extrusion)



ヘルニアが後縦靭帯を穿破する

### 遊離脱出型 (sequestration)



ヘルニアが硬膜外に遊離移動する

椎間腔から移動(migration)したヘルニアで母髄核との連絡が完全でないもの

#### 【効能・効果】

保存療法で十分な改善が得られない後縦靭帯下脱出型の腰椎椎間板ヘルニア

ヘルニコアとは

適正使用に  
関するお願い

医師要件  
施設要件

治療の  
フローチャート

形態分類と  
適応とならない  
症例

適正な患者の  
選択

ヘルニコア投与  
前の確認事項

インフォームド  
コンセント

投与時

副作用

安全性情報・  
臨床成績

参考文献

参考症例